

9 ダーウェント卿

断片

「ああ旦那様 なぜそのように青ざめて  
なぜそのように 血の気も失せて  
門の前で馬に<sup>またが</sup>跨っていらっしゃるの  
まだ夜も明けきらぬというのに」

「ああ妻よ 青ざめて見えるのも無理からぬこと  
どうして陽気になどふるまえようか  
一晩中 敵と戦い  
夜明けとともに引き上げたというのに」

5

「ではボーダーのお味方もご一緒でしょうか  
皆は戦いに勝ったのでしょうか  
ダーウェント様が引き上げるまでに  
戦場はさぞや血に染まったことでしょう

10

どこでその立派な馬を手にお入れなったのでしょうか  
そんなにも 堂々とした良き馬を  
どこでその見事な剣を手に入れたのでしょうか  
そんなにも 血に赤く染まった剣ですが」

15

「血で血を洗う戦場で この剣を手に入れた  
昨夜イーデンの丘で  
馬と馬具を手に入れた  
この世の者にはまねできぬこと」

20

「気高き旦那様 降りて 降りてください  
神様のご加護がありますように  
旦那様を見るのが怖いなど  
今この時が初めてです」

卿は朝日に染まり始めた東に目をやった  
塔も木も染まり始めていた  
「妻よ 支度を 支度を  
さあ 私と共に行くのだ

25

今明けようとする この一日が終わる前に  
ここで大事が起こるだろう 30  
まだ生まれぬ男どもは聞けば震え  
女どもも口をつぐむだろう

その悪行<sup>あくぎょう</sup>を目にすれば  
朝も顔を赤く染めよう  
妻よ 支度を 支度を 35  
さあ私に従い行くのだ」

「気高き旦那様 降りて 降りてください  
生きるも死ぬもあなたと共に  
あなたの脇腹には大きな傷が  
更に先へ行くなど 耐えられるはずありません」 40

奥方は低い呻きを耳にして  
左の肩越しに振り返った  
前に向き直ってみると  
気高き夫の姿はなかった

東へ西へ南へと 45  
塔の周りをぐるりと一周 探して回った  
館も広間も探したが  
人も馬もどこにも見当たらなかった

あちらへこちらへ探して回った  
見るも哀れな有様だった 50  
すると門の前で馬から降りる  
小柄な小姓が目にとまった

「高貴な奥方様 開けてください 開けてください  
あなたの従者を入れてください  
美しいこの城を落とそうと 55  
猛る敵がそこまで迫っています」

「若者よ 教えておくれ 私の旦那様はどこにいる  
どこに行ってしまったのか  
今までここにいらしたのに  
脇腹に深手を負っていらしたのに」 60

「なぜそのように取り乱し  
私を睨むのですか  
旦那様は血に染まる野に倒れ伏し  
もうお会いになることはできません

スコットランドのジャーディンと斬り結び 65  
旦那様は雄々しく戦われました  
敵を敗走させ 陣営を崩すと  
勝利の雄叫びをあげられました

しかしマクスウェルが立て直し 向きを変え 70  
猛烈な反撃を仕掛けました  
それでもイングランドの陣は持ちこたえました  
勇猛な旦那様が倒れるまでは

戦況は一変しました スコットランドの悪党どもが  
逃げる我らをねじ伏せて  
カンバーランドの一带で 75  
火を放ち暴掠ぼうりゃくの限りを尽くしています

マクスウェル卿はジャーディンと共に  
すぐさまカーライルの町に向かいました  
敵方の若きキルパトリックとグレンケルンが  
奥方様を捉えんと探しています」 80

「小姓よ お前はなぜ嘘をつくのです  
食事もお金もたっぷり与えていたでしょう  
旦那様がここにいらしてから  
鶏が刻を告げたのは まだたったの一度だけ

あちらの茂みにとまる 85  
声冴えわたる小鳥が  
うたった歌は まだたったの三曲だけ  
私の旦那様がここにいらしてから」

「お会いになったのが誰であれ 何であれ  
それは旦那様ではありません 90  
イーデンの野で息絶えた旦那様を見届けました  
確かにこの目で見届けました

敵に立ち向かう旦那様を見届けました

旦那様の目の先には 屍が山となりました  
旦那様は雄々しき脇腹を刺しぬかれ  
今際の言葉を託されました

95

「急ぎ我が妻の元へ  
この戦いから逃れて伝えよ  
私はイングランドの大義の為に死ぬと」  
これが最期のお言葉でした

100

ウェストモアランドに逃げましょう  
もうここにはいられません  
懺悔はどうぞ短めに 我らの馬は速く  
道もよく知っています」

「逃げたくはありません 逃げることなどできません  
胸がひどく痛むのです  
目が回り 血が煮えるよう  
前を向くことなどできません」

105

奥方はボローの谷に目を向けた  
恐怖に心が凍り付いた  
キルパトリックを先頭にやってくる  
スコットランドの一団が見えたのだ

110

パウネルに赤い合図の炎が上がった  
スキドー山では三度上がった  
見張りの角笛は野山を越え  
絶えることなく鳴り響いた

115

空は翳り 風は止み  
太陽は血に染まった  
ああしかし 多くの雄々しいものが  
日暮れを見ることはなかったのだ

120

(鎌田明子訳)